

キリスト者のいのち

(IIコリント1:3-7)

一、キリスト者が経験する慰め

今回指定された箇所には「慰め」ということが10箇所出てまいります。ちなみに「慰め」が多い箇所は、新約聖書ではコリント人への手紙第二11章以外にありません。ということから、パウロは自分が主からいただいた「慰め」をコリントの教会員たちと分かち合いたいと考えていた、というメッセージが伝わってまいります。「慰め」とは、単語のつくりは「傍らに助けを呼び求める」ことです。キリスト者は、神が聖霊によって助けを与えてくださることを経験しますが、そういう意味合いで、パウロはこのことばを使ったものと思われるます。使徒パウロは語りました。4節前半です。〈神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます〉と。パウロが語ったのは、主が自分の傍らに助け主を遣わしてくださるという意味です。この表現を聞かれたら、皆さま方は何かを思い起こされるとと思います。そうです。ヨハネの福音書14章16節の〈そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいま

す〉です。〈助け主は、「助けのために、傍らに呼び寄せられて来ている者」の意味で、聖霊です。したがって、パウロが語った〈神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます〉の実体は、聖霊であることが分かります。もちろん神は、人をとおして慰めをもたらされることもあります。ですが、主語はあくまでも神です。IIコリント7章6節で、パウロは語っています。〈しかし、気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことで私たちを慰めてくださいました〉と。神からもたらされる慰めは、他者に対して、神の慰めをもたらすことになりません。それが、4節後半です。〈それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます〉と。

二、パウロが受けた苦難

5節を見てまいります。〈私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです〉とパウロは語りました。パウロが受けた、そして受けていた、さらにこれからも受けるであろう苦難とは、何だったのでしょうか。今回指定されたテキストの範囲外になりますが、8節をご覧ください。〈兄弟たち、アジアで起こった私たちの苦難について、あなたがたに知らずについてほしく

ありません。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした〉とあります。パウロは、どの出来事を指して〈アジアで起こった私たちの苦難について、あなたがたに知らずについてほしくありません〉と語ったのでしょうか。「分らない」が結論のようです。パウロは数え切れないほどの苦難を経験しています。IIコリント11章23節に、偽使徒と比較されたことの反論として〈私は(略)労苦したことはずっと多く、牢に入れられたこともずっと多く、むち打られたことははるかに多く、死に直面したこともたびたびありました〉と語っています。そこから、パウロは、使徒としての召しに応えたことによってたいへんな目に遭いました。イエスさまによって召されたペテロを始めとする使徒たちも、たいへんな目に遭いました。おそらく、ほとんどが殉教したと思われる。使徒パウロはローマ皇帝ネロの時代に殉教したようです。使徒として召されるとは、キリスト信仰のゆえに殉教すると宣言されたようなものです。旧約時代で言えば、主の預言者として召されたようなものです。

三、キリスト者のいのち

苦勞というものは、この世に生を享けた者であるなら、だれもが経験します。特にイエス・キリストを信じるキリ

スト者は、特別な苦勞を経験することになります——地域や時代、そして人によって異なりますが——。旧約時代の預言者たち、イエスさまによって召された使徒たち、及び使徒パウロ、さらには私共に共通するのは、逆境の日に、内側から溢れてくる不思議ないのちを経験することです。IIコリント4章7節で、使徒パウロは語っています。〈私たちは、この宝を土の器の中に入れていきます。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです〉と。〈宝〉とは、主イエス・キリストであり、主イエス・キリストの福音であり、聖霊です。私たち、主イエス・キリストを信じる者は、神からの慰めを受けます。こうして、〈それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます〉のです。主から慰めを受けると、言い換えるなら、自分が分ないしは自分たちの傍らにおられると知りますと、神の慰めが、聖霊による慰めを経験し、その慰めが、外に流れて行きます。それが「キリスト者のいのち」です。

ですから皆さん、がんばらないでください。主の前に弱さをさらけ出して、大いに嘆いてください。そうするならば、主からの慰めがやって来て、私たちは、慰めをもたらす器となります。